

## 人口高齢化の状況におけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の指標と測定

### 背景

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) は2030年の達成を目指す国連持続可能な開発目標 (SDGs) の一目標です。UHCに取り組む各国は、全ての人が必要とする質の高い医療サービスの提供を目指すとともに、こうしたサービスへのアクセスが過度の経済的負担につながらないようにしなければなりません。現在、世界保健機関 (WHO) と世界銀行が共同開発したフレームワークがUHCの測定とグローバル・モニタリングの基準となっています。こうしたグローバルなUHCモニタリングの枠組みはたしかに重要な参照基準ではあるものの、具体的指標は各国の状況に基づき調整され、変化する環境に合わせて合わせるべきです。人口高齢化に伴う保健ニーズの変化により、各国は自国の保健システムの課題に合わせてUHCの測定とモニタリング・システムを調整しています。このため、WHO神戸センター (WKC) はUHCモニタリングが研究や実践の場において現在どのように行われているか、また人口高齢化から生じるニーズに各国の保健システムがどう対応しているかを評価する方法を研究しています。

WKCのねらいは、UHCの測定とモニタリングの現状、および、各国の保健システムがどの程度、高齢者の健康権利に対応しているかを理解することです。高齢者の健康権利には、保健サービスのカバレッジ、公的制度による経済的保護、公平性、ケアの質も含まれます。また、高齢化の進行という状況の中でUHCを推進するため、WKCは測定・モニタリング用ツールの開発や改善に向けた研究、エビデンスから実践へのナレッジ・トランスレーション (知見の活用) を促進する研究も支援しています。

### 主要研究分野

1. 高齢者向けの保健サービス、経済的保護、ケアの質と公平性の測定に関する現行の研究状況の分析
2. 高齢者の健康権利という観点から各国のUHC測定・モニタリング方法に関する研究
3. 人口高齢化に適したUHCを推進する研究とナレッジ・トランスレーションに役立つアプローチについての研究
4. 人口高齢化の状況において各国がUHCモニタリングを実施するための指標と評価ツールの開発支援

### 進捗報告 (2019~2020年)

#### 2019~2020年に終了した研究の成果 (4つのプロジェクト)

超高齢社会日本のUHC持続に向けた効率的な医療提供とは~大規模ヘルスデータの二次分析~ (産業医科大学、2017~2019年) は、大規模な医療データベースを利用し、日本社会の高齢化に伴い懸念されている医療へのアクセスの格差解消を目指す複数の研究が実施されました。その1つに、診療報酬明細データベースの1つである診断群分類包括制度 (DPC) データベースの解析に基づくものがあります。精神疾患のある患者は十分な医療を受けられないという一般的な傾向とは対照的に、国内の認知症患者は股関節手術において優先されている可能性があることが本研究で明らかになりました。本プロジェクトの結果概要はWKCのウェブサイトで公表しており、査読付き論文は *BMC Health Services Research* に掲載されました。

**高齢者のケアに関連するユニバーサル・ヘルス・カバレッジの測定：イランの国情に考慮したスコーピングレビュー（イラン医科大学 医療経済・管理研究センター、協力：WHO イラン事務局、2019～2020年）**では、特に高齢者に必要な統合された長期ケアのサービスの適用範囲と経済的保護をどのように評価するかに焦点をあてました。文献レビューの結果については、イランの研究者と行政関係者を交えた専門家パネルと2回の討議が行われました。専門家パネルによる議論の結果、複数の評価指標について、健康情報に関する既存のシステムや調査に限界があるか、介護関連のプログラムや仕組みが存在しないかのいずれかの理由により、国または地方自治体レベルでの測定が現実的ではないと指摘されました。イランでは、家族介護者による高齢者へのインフォーマルケアの性質を評価する方法を開発することも優先事項の1つと考えられるとの結論が得られました。本プロジェクトの結果概要とワーキングペーパーはWKCのウェブサイトで閲覧できます。本研究に基づく論文は、現在、Eastern Mediterranean Health Journal に投稿し、査読を受けています。

**ミャンマーとマレーシアの高齢者向けに改良と検証を加えた健康モニタリングツール（マレーシア国立大学、2018～2020年）**では、急速な高齢化が予測されている両国における高齢者の健康やその決定要因に関する理解を進めるため、日本老年学的評価研究（JAGES）の調査方法、ツール、教訓を適用しました。本研究では、JAGESの調査ツールの翻訳・改良版を作成し、マレーシアとミャンマーでの利用について検証しました。両国から各々1200名のデータを収集しました。マレーシアの調査では、併存疾患の自己申告が多く、また、一部に体調不良や歩行障害による受診回避が認められました。ミャンマーの調査では、年齢などの要因を調整した結果、男性より女性の方が健康状態や機能が不良である傾向が認められました。現在、本研究結果をもとにして作成した論文5件が学術誌の査読を受けており、結果概要はWKCのウェブサイトで公表しています。

**ライフコース・アプローチによるUHCモニタリングのための概念枠組み（神戸大学とマヒドン大学、2019～2020年）**では、健康な高齢化へのライフコース・アプローチという概念、および、保健政策や計画への適用について探究されました。レビューの結果、高齢者における保健医療へのアクセスや健康アウトカムに着目して、ライフコースの概念を適用している事例は限られることが明らかになりました。むしろ、ライフコース・アプローチはライフコース初期の介入の根拠とされることが多く、その結果、高齢者向けの健康関連サービスのリソースが他にシフトされてしまう可能性があります。結果概要およびワーキングペーパーはWKCのウェブサイトで閲覧できます。査読付学術誌への投稿に向けて、現在、論文を執筆しています。

## 進行中の研究（2019-21年）と期待される成果（6つのプロジェクト）

**ベトナムの高齢者に対する経済的保護に関する評価（ベトナム保健戦略政策研究所、2019～2020年）**は、高齢者を含む世帯では保健医療支出が多いことを明らかにした先行研究をもとにしています。本研究では、高齢者を含む世帯の保健医療支出の内訳を調査し、その構成を明らかにします。高齢者を含む世帯の調査は6県で実施し、世帯への詳細な聞き取り調査に加え、行政関係者を交えたフォーカスグループディスカッションも実施します。本研究では、保健医療財政政策における格差を明らかにし、ベトナムの高齢者を対象とした財政支援を強化するための知見を得ることを目的とします。本研究は、2020年12月までに完了する予定です。本研究をもとに政策概要および技術報告書を作成し、高齢化に関するWHOの地域戦略策定に寄与する予定です。

**スコーピングレビュー：高齢者の健康ニーズとサービスのカバレッジにおける公平性について（シェフィールド大学、リバプール大学、大阪大学、2020～2021年）**では、特に高齢者の健康ニーズに対するサービス適用範囲の公平性に関する概念的文献を調査します。まず、本トピックに関する既存の知見を統合し、新しい概念枠組みを構築します。次に、この新たな概念枠組みが、既存のUHCや保健医療アクセスの公平性をモニタリングするための枠組みとどの程度統合できるかを検討します。人口高齢化の観点に立ったUHCのモニタリングに関する政策概要も作成する予定です。本プロジェクトは、イギリスと日本（大阪）の研究チームが共同で実

施しています。日本の研究チームは、同様の内容を研究主題とする日本語文献を対象にスコーピングレビューを実施し、得られた知見を、海外文献のレビューから得られた知見と比較します。両チームが得た知見は、学術誌に投稿します。このスコーピングレビューに基づき、**高齢者の医療的・社会的ケアに関するサービスのカバレッジにおける公平性の解析（仮題）**に関する統計学的研究を、WHO 本部と複数の地域事務局の各関連部局と協力して、2020～21年に実施する計画をたてています。本研究では、高齢者の未充足のニーズを、需要と供給の両要因を考慮し、複数国の利用可能なデータベースを用いて評価する新規手法を検証する予定です。結果は学術誌に論文として掲載するほか、UHC グローバル・モニタリング・レポートや、保健サービスへのアクセスを妨げる障壁の評価に関する WHO の技術ガイダンスへの作成にも役立つことが期待されます。

2020年、WKCは、経済的保護およびUHCに関する2021年のグローバル・モニタリング・レポートに提供する新たなエビデンスにつながる一連の研究を実施するため、ジュネーブ本部の保健制度ガバナンス・資金供給部門の経済評価・分析（EAE）ユニットと新たに提携しました。**システムティックレビュー：保健医療サービスへのアクセスを妨げる経済的障壁とその結果としての受診回避行動（東京大学、2020年）**では、一般集団や、特に高齢者において必要とされる保健医療サービスへのアクセスを妨げる障壁と受診回避行動に関して、既存の国内外のエビデンスと知見を総合することを目的としています。経済的障壁を原因とする受診回避の普及率に関する定量的なエビデンスを新たに取得し、将来の緩和政策につなげるための今後の研究に向けた基礎となると考えられます。**保健医療が原因となる経済的困窮に関する家計調査データの年齢層別および性別解析（仮題）（2020～22年）**も、EAEをはじめ、アフリカ、アメリカ、東南アジアの各WHO地域事務局との協力で進められており、データの利用可能性に応じて他の地域にも広げられる予定です。経済的保護に関するデータを年齢層別に体系的に収集することは、WHOにとって初めての試みとなります。本研究の結果は、経済的保護に関する2021年のグローバル・モニタリング・レポートに活用し、論文化も予定しています。

定量的測定に関連では、WHOの職員と各国の専門家が、高齢者ケアの質の評価に関する研究を協力して進めるために討議を重ねています。長期ケアに関する経済協力開発機構（OECD）の先行研究や、COVID-19パンデミック下における介護施設でのケアの質に対して注目が高まっていること、長期ケア関連の新刊出版に向けて欧州保健制度・政策研究機構とWKCが合意していることなどを考慮し、本研究では、**長期ケアの質の評価**に的を絞ろうと考えています。この研究では、このテーマに関する既存の文献のレビューと既存データの解析を行い、長期ケアの質の重要な指標、および、サービスの価格設定の仕組みなど、ケアの質に影響する保健医療制度や政策の因子との関連を調査します。本研究の結果は、各国向けのWHO質評価ツールキットや、欧州保健制度・政策研究機構が出版を予定している長期ケア関連の書籍、長期ケアに関するWHO欧州地域の研究分野に資することが期待されます。

## 出版物

### 学術論文

1. Tomioka, S., Rosenberg, M., Fushimi, K. *et al.* An analysis of equity in treatment of hip fractures for older patients with dementia in acute care hospitals: observational study using nationwide hospital claims data in Japan. *BMC Health Serv Res* 20, 830 (2020). <https://doi.org/10.1186/s12913-020-05690-9>
2. Rosenberg M, Kondo K, Kondo N, Shimada H, Arai H. A primary care approach to frailty: Japan's latest trial in responding to the emerging needs of an ageing population. Under review by *BMJ Integrated Healthcare Journal*.
3. Hosseinijebeli SS, Rezapour A, Rosenberg M, Lakeh MM. Measuring universal health coverage to ensure continuing care for older people: a scoping review with specific implications for the Iranian context. Under review by the *Eastern Mediterranean Health Journal*.
4. Shah SA *et al.* Translation and reliability test of a Bahasa Malaysia version of the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES) questionnaire. Under review by the *Malaysian Journal of Medicine and Health Science*.

5. Win HH et al. Cohort profile: Healthy and active ageing in Myanmar (JAGES in Myanmar 2018) — A prospective population-based cohort study of the long-term-care risks and health status of older adults in Myanmar. Under review by *BMJ Open*.
6. Sasaki Y et al. Differences between Myanmar's rural and urban older populations in the factors affecting depressive symptoms. Under review by *Social Science & Medicine*.
7. Sasaki Y et al. Association between depressive symptoms and objective/subjective socioeconomic status among older people in Myanmar. Under review by *PLOS One*.
8. Sasaki Y et al. Association between happiness and objective/subjective socioeconomic status among older people in Myanmar. Under review by *BMJ Open*.
9. Saito J, Haseda M, Amemiya A, Takagi D, Kondo K, Kondo N: Community-based care for healthy ageing: lessons from Japan. *Bulletin of the World Health Organization* 2019;97:570-574.
10. Nagamine Y, Kondo N, Yokobayashi K, Ota A, Miyaguni Y, Sasaki Y, Tani Y, Kondo K. Socioeconomic disparity in the prevalence of objectively evaluated diabetes among older Japanese adults: JAGES cross-sectional data in 2010. *J Epidemiology* 2019; 29(8): 295–301.
11. Watanabe R, Kondo K, Saito T, et al. Change in municipality-level health-related social capital and depressive symptoms: ecological and 5-Year repeated cross-sectional study from the JAGES. *Int J Environ Res Public Health* 2019;16(11):2038. doi:10.3390/ijerph16112038
12. Saito M, Kondo N, Oshio T, Tabuchi T, Kondo K. Relative deprivation, poverty, and mortality in Japanese older adults: a six-year follow-up of the JAGES cohort survey. *Int. J. Environ. Res. Public Health* 2019;16(2):182. doi:10.3390/ijerph16020182
13. Tani Y, Suzuki N, Fujiwara T, Hanazato M, Kondo K. Neighborhood food environment and dementia incidence: the Japan Gerontological Evaluation Study cohort survey. *American Journal of Preventive Medicine* 2019;56(3):383-92.
14. Amemiya A, Kondo N, Saito J, Saito M, Takagi D, Haseda M, Tani Y, Kondo K. Socioeconomic status and improvement in functional ability among older adults in Japan: a longitudinal study. *BMC Public Health* 2019;19:209.

## 結果概要

*Evidence for improving health care provision to ensure universal health coverage amid rapid population ageing in Japan.* Kobe: World Health Organization Centre for Health Development; 2019.

[https://extranet.who.int/kobe\\_centre/en/project-details/evidence-improving-health-care-provision-ensure-universal-health-coverage-amid-rapid](https://extranet.who.int/kobe_centre/en/project-details/evidence-improving-health-care-provision-ensure-universal-health-coverage-amid-rapid)

*Measuring universal health coverage in relation to care for older people: a scoping review with specific consideration for the Iranian context.* Kobe: World Health Organization Centre for Health Development; 2020.

[https://extranet.who.int/kobe\\_centre/en/project-details/Monitoring\\_UHC\\_Iran](https://extranet.who.int/kobe_centre/en/project-details/Monitoring_UHC_Iran)

*Adaptation and validation of tools for monitoring the health of older people in Myanmar and Malaysia.* Kobe: World Health Organization Centre for Health Development; 2020.

[https://extranet.who.int/kobe\\_centre/en/project-details/asean\\_malaysia\\_myanmar](https://extranet.who.int/kobe_centre/en/project-details/asean_malaysia_myanmar)

*Conceptual framework for monitoring life-course approach to Universal Health Coverage.* Kobe: World Health Organization Centre for Health Development; 2020.

[https://extranet.who.int/kobe\\_centre/en/project-details/UHC\\_monitoring\\_Asean](https://extranet.who.int/kobe_centre/en/project-details/UHC_monitoring_Asean)

## 2019-20年に発表された研究公募

高齢者のサービス・カバレッジにおける公平性の評価に関する日本語文献のスコーピングレビュー。2020年3月26日、WKCのウェブサイト上で募集を発表し、2020年4月10日に受付を終了しました。選考は2020年4月に行われました。

保健医療へのアクセスが原因となる経済的困窮に関する家計調査からのデータ解析。研究公募に関する情報は、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ・ライフコース (UHL) 保健制度ガバナンス・資金供給部門 (HGF) の経済評価・分析ユニット (EEA) がコンサルタント登録簿に登録し、2020年7月21日から8月11日まで国連グローバルマーケットプレースのウェブサイト上で募集が行われました。